



JAゆうべつ町



KAGAYAKU TSUBASA

# 輝く翼

湧別町の空に飛ぶ白鳥を見た時、私は素敵だなと感動しました。「JA ゆうべつ町」が飛躍する事を願い、群れをつくり大空に羽ばたく真っ白な白鳥の様に、気持ちを新たに一致団結して前へ大きく前進する願いを込めてデザインイメージをしました。そして皆さんが愛読するにあたって、優しく温かい気持ちになれる様にと虹の橋を架けました。先頭を飛ぶ真ん中の白鳥にはリーダーと言う意味があり、冠を付けてみました。

## オホーツク湧別バイオガス株式会社 設立発表会



オホーツク湧別バイオガス株式会社  
設立発表会(令和3年11月1日)

# 「オホーツク湧別バイオガス株式会社」設立発表会開催

11月1日、上湧別コミュニティセンターにて「オホーツク湧別バイオガス株式会社」設立発表会が開催されました。

この会社は湧別町農業協同組合、えんゆう農業協同組合、湧別漁業協同組合、株式会社バイオストック、バイオマスリサーチ株式会社、湧別町の6者が出資して設立された新会社です。事業に参加する23戸の農家も加入します。代表取締役は湧別町農業協同組合の上田組合長が務めます。町・農漁協・民間企業が協力する全国でも事例のない組織になります。



▲代表取締役を務める湧別町農業協同組合の上田組合長



総事業費は約34億5千万円。完成すれば全道で2番目の大きさを誇る集中型のバイオガスプラント（成牛換算で約3千400頭規模）を建設します。令和4年に着工し令和7年からの稼働を目指します。町内で出るふん尿をバイオガスプラントで処理し、発生した電気を売電します。その発電量は年間約670万キロワットで、約1千600世帯分の電気を賄える量となります。

将来的には消化液の飼料畑への利用や余剰熱を利用した施設園芸、ブラックアウトなどの災害時の電力供給といったバイオガスプラントから発生する再生エネルギーを高度利用していく事業を検討しています。

上田代表取締役は「関係機関と協議を積み重ね、この新会社を設立できたことでやっとスタート地点に立つことができました。

国内では温暖化ガス排出を2050年までに実質ゼロにする「カーボンニュートラル」を環境方針として表明していますが、我々の会社では原料の家畜ふん尿の処理はもちろんのこと、そこから発生する再生エネルギーを有効活用することで脱炭素への貢献が果たせるものと確信しています。

しかしながら、現状課題も山積みで、地球規模の温暖化に対応する再生エネルギーの活用方策など多くの課題を乗り越えていく必要があります。」と挨拶をし、「日本におけるバイオガス事業の一つ

のモデルになり、地域に誇れる会社となれるよう努力していきます。」と決意を表明しました。



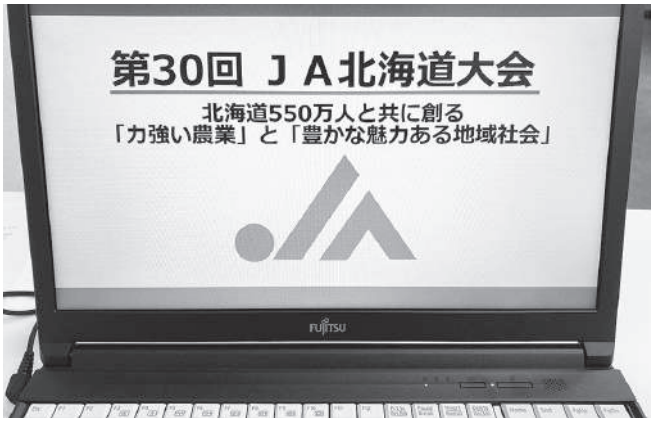
新会社のロゴ旗を持つ各出資会社・団体の代表者

- |   |                          | 左から (敬称略) |    |
|---|--------------------------|-----------|----|
| ■ | バイオマスリサーチ株式会社<br>代表取締役社長 | 菊池        | 貞雄 |
| ■ | えんゆう農業協同組合<br>代表理事組合長    | 関口        | 哲治 |
| ■ | 湧別町農業協同組合<br>代表理事組合長     | 上田        | 範幸 |
| ■ | 湧別町<br>町長                | 石田        | 昭廣 |
| ■ | 湧別漁業協同組合<br>代表理事組合長      | 阿部        | 俊彦 |
| ■ | 株式会社バイオストック<br>代表取締役社長   | 熊谷        | 智孝 |

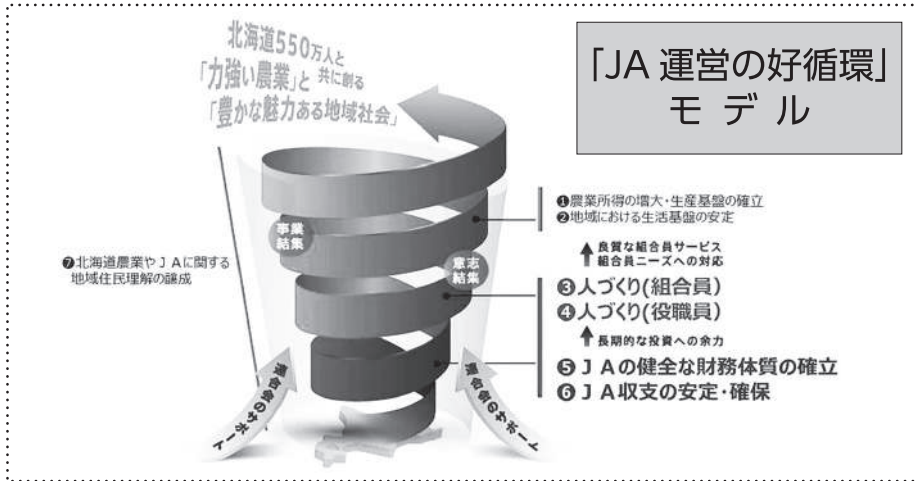
# 第30回 JA北海道大会開催

JAグループ北海道は11月16日に共済ホールで第30回JA北海道大会を開催しました。今回は新型コロナウイルス対策のため、会場での参加が制限され、会場に行けない役員等はWeb配信での参加となりました。

今回の大会では、グループが目指すべき将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』」の実現に向けて



▲パソコンから Web 配信での参加



①「JA運営の好循環」に向けて対話の成果を実践  
②「JA運営の好循環」を支える人づくり・JA経営の強化の2つを令和4～6年度の3カ年の基本目標と決めました。

# 湧別地区 芭露地区 営農懇談会開催

11月25日は湧別町農協本所、26日は芭露支所において、令和3年度事業における経過報告及び令和4年度事業計画方針や営農方針を議題とした営農懇談会が開催されました。報告事項としては、生乳の生産状況、小麦・南瓜等の農産物の生産状況、牧野事業の実績報告を行いました。



▲湧別地区の様子



▲芭露地区の様子

協議事項としては、令和4年度の事業計画方針と営農方針について説明を行い、組合員から出された意見を集約し、次年度に向けた営農方針を確認しました。  
今年度はクミカン精算協議を12月6日から10日まで、営農計画協議を12月6日から18日までの日程で行う予定です。組合員の皆様にはご理解ご協力をお願いします。

## てん菜の出荷作業完了

今年度のてん菜出荷作業は10月18日から開始し29日に全てのてん菜出荷が完了しました。

今年度のてん菜は、記録的な干ばつの影響が心配されていましたが、収量については6.0t/反の実績収量となり、昨年を下回りましたが平年並みの収量となりました。糖分については16.2度と昨年並となりましたが、平年より低めになりました。



▲てん菜の出荷作業の様子

## ふれあいふるさと集会開催 JAゆづべつ町青年部

11月12日に湧別小学校で「ふれあいふるさと集会」が行われ、JAゆづべつ町青年部は3・4年生を対象に酪農に関する授業を行いました。

授業では「酪農と牛のひみつ」という内容で、酪農の作業をする上で大変な事・楽しい事や牛のからだの事を、クイズを交えながら紹介しました。問題を出すと子ども達は積極的に手を挙げて答えてくれ、終始楽しい授業となりました。



▲授業の様子

## 感謝を込めて 80歳記念品贈呈

11月4日、これまで湧別町の農業振興と発展にご尽力いただいた、満80歳（昭和16年生まれ）の方々に感謝の気持ちを込めて個別に訪問し記念品の贈呈を行いました。

記念品の贈呈者は次の通りです。（敬称略）

福井 正雄 (湧別町東)	山崎 勝規 (湧別町東)	黒田 紀臣 (湧別町川西)	吉本 正弘 (湧別町川西)
-----------------	-----------------	------------------	------------------



## 農業空容器等の回収を行いました

11月17日、湧別・芭露両地区で農業空容器等の回収を行いました。環境問題が注目されている中、農業用産業廃棄物を適正に処理する為、毎年行っております。敷地内の景観維持の為に今後ともご活用ください。



## 一回皆貯金運動

11月19日に農協法が公布された事を記念し、一日皆貯金運動を11月15日から19日まで一週間実施し、多くの方々にご協力を頂き終了しました事をお礼申し上げます。

11月25日、農協事務所において監事3名により厳正なる抽選を行い合計50本の懸賞金当選者が決定いたしました。

当選者の方には、Aコープ商品券の発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

今後も、当農協事業のご利用をよろしく願います。



▲監事3名が抽選を行いました

## 2人目の一級整備士が誕生 湧別町農協車両整備工場

10月11日付けで当農協整備工場の廣井晃彦職員が試験に合格し、2人目となる一級整備士が誕生しました。

一級整備士は新技術にも対応できる知識と高度な技術を持った自動車整備士の最高位の資格です。北見管内には整備作業従事者が約1千200人いますが、一級整備士取得者は36人と取得がかなり難しいとされています。

高度な技術を持った整備士が皆様の愛車をより安心・安全に整備いたします。皆様のご利用を整備工場職員一同お待ちしております。



▲当農協整備工場の一級整備士  
廣井職員（左）と荒井職員（右）

## 「たべる」「つくる」 「たのむ」「たのまふ」 ～えびす南瓜産直会議～

11月16日、農畜産販売課は当農協事務所にて、パルシステム生活協同組合（以下、パルシステム）との意見交換会をリモート会議方式で開催しました。

パルシステムは、えびす南瓜をAWアグリフーズテクノ(株)通じ、冷凍食品として流通しています。

また、生協のトドック同様の宅配サービスを展開し、食と農をつなぐ豊かな地域社会の形成に貢献し、当組合の南瓜は甘みが強く、安心・安全な産直産地との評判が消費者にしっかりと定着し、実に20年以上の取引が続いています。



▲リモート会議の様子

「パルシステム 栗かぼちゃ」で検索すると湧別産南瓜の様々な情報が閲覧できます。

### 北海道冷凍栗かぼちゃのクチコミ評価 平均 4.6 点 (5 点満点中)

- ・ほくほくで甘くて、レンジでチンしてサラダや煮物に大満足。
- ・色々ある冷凍かぼちゃの中でこの商品はハズレがありません。
- ・すでにカットされている状態なのですぐに使えて便利。
- ・離乳食に使っています。子どもがパクパク食べてくれます。

生産者の立場として、今年の南瓜生育状況や栽培管理の苦労話、今後の課題などを問題定義しながら意見交換を行いました。

一方、消費者の声として湧別産南瓜の美味しさがとても評価されていることを知り、年々作付面積が減少傾向にある中でパルシステムの理念である「たべる」「つくる」「たのむ」「たのまふ」共生の社会形成にむけて、当組合も何をすべきかを考える必要性を感じました。



## 畜産

### 仔牛の栄養管理について

#### 一 ほ育期について

子牛のほ育管理は、その後の発育に大きく影響する重要なステップです。ほ育管理には様々な方法がありますが、基本を確認し、それぞれの状況に応じて最適な方法を選択してください。

#### 二 液状飼料の給与

液状飼料は、ほ育期の子牛にとって最も重要な栄養源です。代用乳を用いる場合は、紙袋に記載されている濃度（代用乳量・お湯）や温度を正確に給与しましょう。また、給与時には定時、定温を意識し、毎回の作業が変わらないようにしましょう。

生乳の場合も同様に、定時・定温を守り、給与しましょう。給与の際には、パスタチャライザーなどを用いて63℃30分の殺菌を行い雑菌の増殖を防ぎましょう。廃棄乳は、細菌数が多く、殺菌しきれないため、給与しないようにしましょう。

また、保存の際は蓋つきバケツや清潔な哺乳瓶などの洗いやすい容器に入れ、冷蔵保存しましょう。

#### 三 人工乳および水の給与

人工乳の給与は、ルーメンを発達させるために重要です。人工乳は、一握り程度（50g）から給与し、完食するようになったら100gずつ増給しましょう。また、人工乳の採食量を増やすため、自由飲水できるようにしましょう（図1）。

水は、ほ乳後すぐに与えると、代用乳や生乳と間違えてがぶ飲みすることもありますが、ほ乳後すぐには、与えないようにしましょう。また、乾草は柔らかいものを少量給与してください。栄養にはなりません、満腹感向上や敷料摂取量が減るといった報告があります。

#### 四 離乳について

離乳の目安は週齢よりも人工乳の採食量で判断すべきとされています（日本飼養標準2017より）。一日の人工乳の採食量が、1

kgを超えるか、3日間続けて500gを超えるようになると離乳が可能とされています。

離乳は子牛にとって大きなストレスとなるため、しっかりと食い込めることを確認してから行いましょう。

## 畑作

### 秋まき小麦のコムギ縞萎縮病について

#### 一 令和3年産

##### 秋まき小麦について

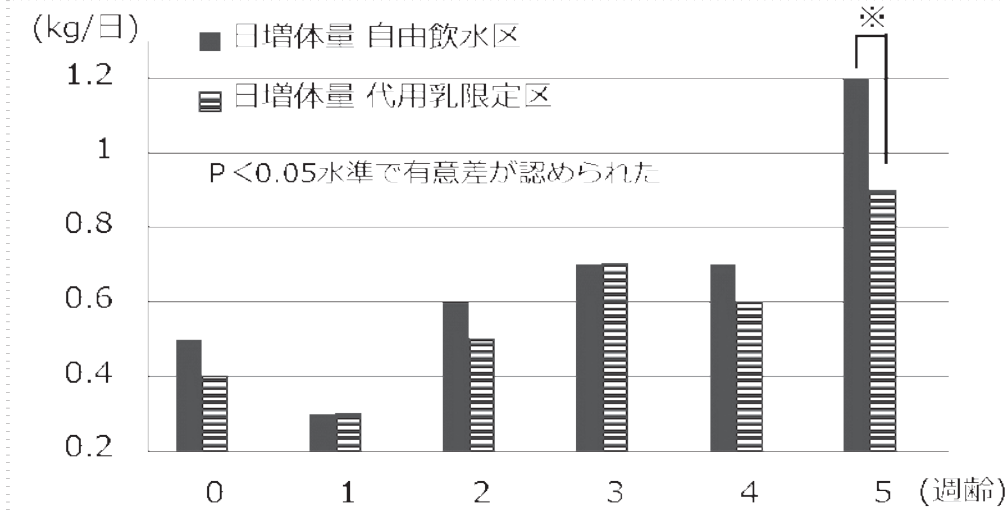
秋まき小麦は「コムギ縞萎縮病」の多発年となりました。このようになった要因は、は種期が平年より早かったこと。秋の気候がウィルスの感染しやすい5〜15℃、増殖しやすい10℃前後の期間が長い環境であったこと。（図2感染イメージ参照）。根雪が遅かったこと。さらに本年産は、起生期以降の低温期間が長くなったことが、ウィルスの増殖をより促し多発年となりました。感染すると、生育に大きな差が出てしまい、品質収量に影響を及ぼします。

#### 二 コムギ縞萎縮病について

（引用：北海道病害虫防除提要）

##### ① 病原菌

●病原ウィルスはコムギ縞萎縮ウィルス（WMV）です。本ウィルスは土壌伝染性です。小麦への感染は *Polymyxa graminis* 菌





- (以下ポリミキサ菌)が媒介します。
- ② 伝染経路  
(図2感染イメージ参照)  
● コムギ縮萎縮ウイルス (WMAV) は、ポリミキサ菌により土壌伝染です。
- 汚染土壌が唯一の伝染源です。
- 本病に一旦汚染されると、数年程度の輪作や休耕で伝染源を消滅させることはできません。また、現状では本ウイルスを減少させる技術はまだありません。種子伝染及び虫媒伝染はしません。
- 根雪が遅く、秋が長い年次や地域では、感染期間が長引くため、発病しやすくなります。また、早播きで発病が多くなる傾向にあります。

三 対策

- ① 未発生ほ場へウイルスを持ち込まないようにしましょう。
- 発生圃場での作業を後にするなど土壌遊離を防止しましょう。
- 農機具に発生ほ場の土壌が付着した場合はよく洗浄しましょう。
- ② 菌密度を増やさないようにしましょう。
- 連作は避けましょう。

- ③ 適期は種の励行  
● 秋の生育期間が長いと感染期間も長くなるため、極端な早まきは避けましょう。
- ④ 透排水性改善  
● 湿潤状態でポリミキサ菌は遊離するので、感染拡大防止に、心土破砕などを施し、排水対策を講じましょう。

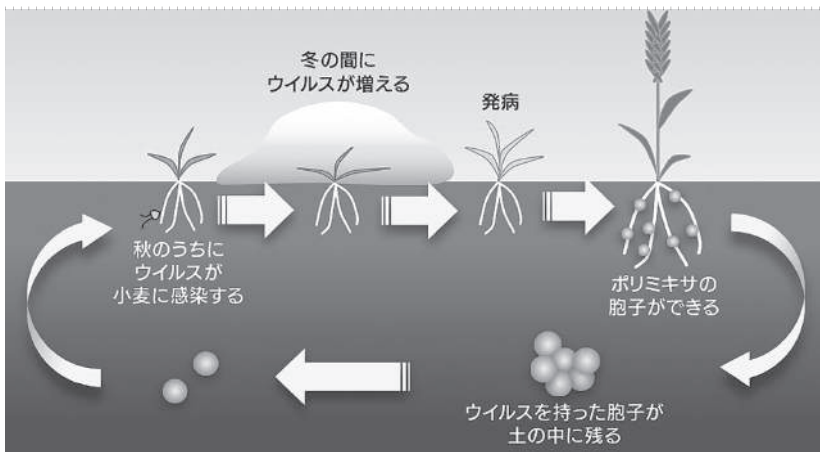


図2 感染イメージ (米麦改良協会 により引用)

# 「食」と「農」 都市と農村 つなげる紙面

役立つ、得する、  
楽しい情報が満載

●購読のお申し込みは JA へ  
購読料 1カ月2,520円(税込)

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS  
**日本農業新聞**  
<http://www.agrinews.co.jp>

協同の輪を広げ 自己改革を進めよう JAグループ情報共有運動



# 農協 お知らせ版

令和3年度 第10回理事会  
11月24日開催

## 報告事項

- ① 「オホーツク湧別バイオガス株式会社」 設立総会・発表会について
- ② 対策室会議について
- ③ コントラ部会役員会について
- ④ 酪農生産部会役員会について
- ⑤ 畑作生産部会役員会について
- ⑥ 営農・経済専門委員会について
- ⑦ 第30回 J A 全道大会について
- ⑧ 監事監査について
- ⑨ 一日皆貯金について
- ⑩ 再発防止策取組状況報告について
- ⑪ 自由金利型定期貯金の受入れと貯金残高の推移について
- ⑫ 令和3年10月末生乳生産実績について
- ⑬ 南瓜及びてん菜代金の概算払いについて
- ⑭ 令和3年度決算見込みについて

⑮ 組合員の実績報告について

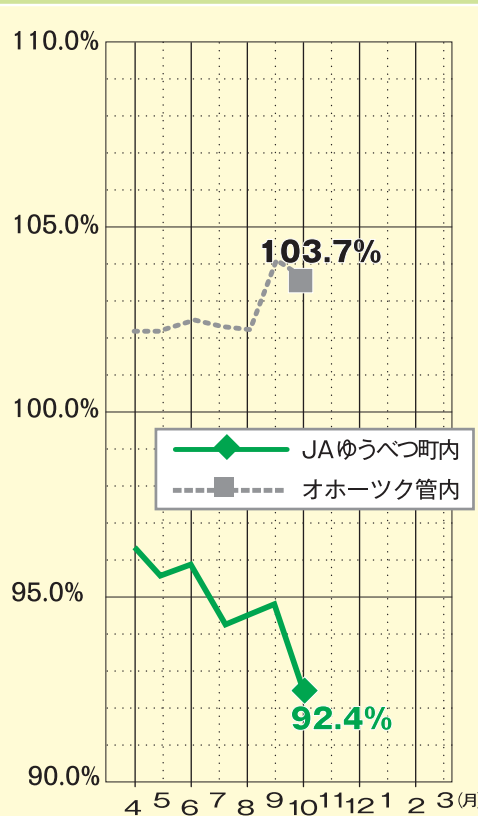
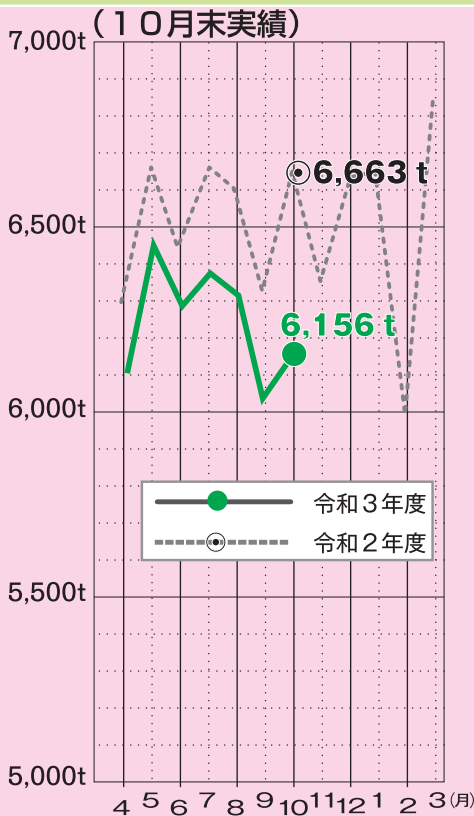
## 議事事項

- ① 組合員の異動について
- ② 自己査定に係る資産評価額の設定について
- ③ 年末手当の支給について
- ④ 燃料手当の追加支給について
- ⑤ マネーロンダリング及びテロ資金供与対策進捗状況について
- ⑥ 令和4年度営農方針(案)について

## 令和3年度生乳出荷状況について

J A ゆうべつ町 生乳出荷乳量推移

生乳出荷乳量との前年比較



2022 家計簿

# SDGs!

12月号第1別冊付録

未来を楽しく

# HAPPY

12月号第2別冊付録

本家のごす わがしメイト

ひと工夫 明日のしあわせ 家族の笑顔

12月号・1月号 購読申込受付中

お申し込みはお近くのJA本・支店(所)へ

家光 tenohkari

定価(税込)  
 ●普通月号 629円  
 ●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円  
 ●家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 [TEL] 03-3266-9039 <http://www.jenohikari.net>